

## 第6学年A組

## 音楽科学習指導案

題材 曲想を感じとって聴こう

教材 管弦楽組曲「惑星」から 木星

## 1 児童の実態

本学級の子供達は、これまでの鑑賞の学習において、楽曲の強弱や速さの変化を感じ取る為に、音楽に合わせて指揮の動作化を行いながら聴いたり、身体を左右に動かしたりする活動を行い拍や強弱を身体を通して感じ取ってきている。そして、主題の旋律を覚え、主旋律を口ずさんだり、友達の指揮に合わせて、歌う経験もしてきている。また、さまざまな指揮者の意図で、同じ楽曲の聞き比べをすることで曲が変わってくることにより演奏の仕方が異なりを知り、音楽を聴く楽しみも味わいはじめている。

曲全体が醸し出す雰囲気をつかえて、イメージを膨らませながら情景を想像して聴いたり、楽器の音が重なり合う響きの美しさを味わうことはできていない。

## 2 題材について

「木星」は、スケルツォ＝ロンド風楽章である。始めにシンコペーション主題を中心とした曲であり、次々と変化していく曲の気分を感じ取って自由にイメージを膨らませながら聴くことができる曲である。また、中間部では吹奏楽による行進曲風のものである。ここでは印象的な旋律を口ずさんだり、リコーダーなどを曲の気分にあった楽器で演奏しながら聴くことも、曲に親しんだり表現の活動への発展させたりできる題材である。

## 3 教材について

楽曲分析
------

管弦楽組曲「惑星」の楽曲分析

曲の特徴

- ・大規模な管弦楽団と女声合唱によって演奏されるもの。
- ・組曲は 以下の7曲からできている。
 

1, 火星－戦いをもたらすもの	2, 金星－平穏をもたらすもの
3, 水星－翼のある使者	4, 木星－喜びをもたらすもの
5, 土星－老いをもたらすもの	6, 天王星－魔術師
7, 海王星－神秘家	

管弦楽組曲「惑星」から 題四曲「木星」喜びをもたらすもの

曲想
----

大規模な管弦楽団によって演奏され、晴れ晴れとした四主題をもち、いたるところ喜びに満ちあふれ、壮大な宇宙を速度や音色の変化から味わうことのできる曲である。

形式 ; スケルツォ＝ロンド風楽章 3部形式 (A - B - A')

第1舞曲は、ペンタトニック（5音音階）風

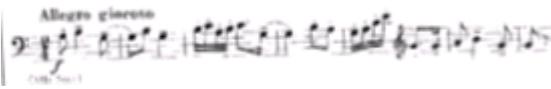
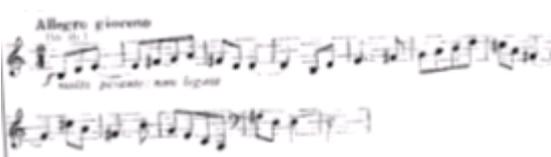
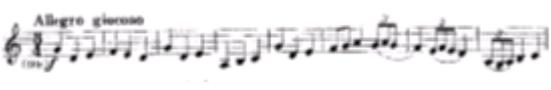
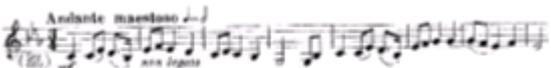
16音符3つからなる音形が2/4拍子3小節単位で8回くり返されるポリメトリックによる斬新第1部

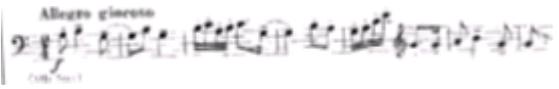
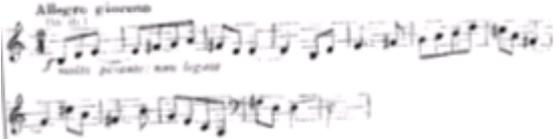
第2舞曲は、（第65小節以後）吹奏楽による行進曲風のもの

第3舞曲は、（第108小節後）は3/4拍子でに変わり、ホルン6本による華やかなもので、それに続くモールス信号風の嬰へ長調

- リズム；全体的に8分音符を中心にしたリズム
- 旋律；第1フレーズ～第8フレーズ 前半山型順次進行
- 拍子；4分の2拍子→4分の3拍子→4分の2拍子→4分の3拍子→4分の2拍子
- 調；ハ長調
- 奏法；オーケストラ
- 強さ；f → p → f・f f
- 速さ；Allegro giocoso → Andante maestoso → Maestoso

(2) 組曲「惑星」の教材解釈

	楽 曲 の 構 成	
	曲 想 ・ 強 さ	速 さ ・ 拍 子
第一主題 	速い弦の伴奏の上に、歓喜を予告するようにホルンが快活な主題をたくましく奏する。	Allegro giocoso
第2主題 	これが、fffに盛り上げられ、小躍りするような経過部を通る。	
第3主題 	ホルンが親しみのある民族舞曲風の主題を陽気に歌いはじめ、歓喜はいよいよ高まって八分音符が笑いざわめく用に続く。  宇宙の夜明けを捉えるかのように静まり終わる。	4分の3拍子 次第に速くなる  4分の2拍子 いっそう盛り上げる  沈静をみる  響きは厚みを増して盛り上がる
第4主題 	ホルン・弦楽器・トランペット・ティンパニー・金管楽器	Andante・maestoso 変ホ長調 低音部の音の重なり

<p>歌曲風旋律、後に作曲家自信によって独特の歌曲に書き換えられた</p>	<p>小さな無数の星を表す 宇宙の夜明けを捉えかのように</p>	<p>りが変化し圧巻である  4分の3拍子第2に晴れの祝典を思わせる第4主題  風で親しみやすく、移り、静粛ではある。</p>
<p>第一主題</p>  <p>第二主題</p> 	<p>壮大なフィナーレ</p> <p>第1主題の冒頭から第2主題の終わりまでが再現さる。</p>	<p><b>lento maestoso</b> ロ長調 ↓ <b>presto</b> ハ長調 <b>fff</b> のコーダ</p>

※この教材で期待できること

4管編成の大きなオーケストラの音楽である。金管楽器の響きと共に打楽器の取り扱い、速度の変化、そして強烈な強弱の表現を感じ取ることのできる曲である。

この曲「木星」の全体を部分指揮をしながら聴いたり、口ずさむことで、曲想を感じ取り情景を思い浮かべることができる。前半・後半部分と中間部分では、曲想も違い、その曲想の違いを強さや速さの変化の違いに着目することで情景を思い浮かべながら聴いたり、することができる曲である。と考える。

4 指導にあたって

本題材指導にあたっては、児童が「木星」を聴く段階で、大きく形式の構成に目を向けたり、曲を特徴付けている、速さや強さの変化に気付かせ情景を想像させ、曲想を味わわせたい。まず、曲の速さを感じ取らせるために、目を閉じ指揮をすることや、主な旋律を覚えて、口ずさむことから速さ・強さに気付かせたい。考える。「木星」の様子や情景を伝えるために情景図や映像で宇宙を自由な発想に基づいて、宇宙の様子を想像させる。さらに、曲想を深ませるために、中間部の表現を工夫し、そして原曲の「木星」を聴き確かめることで曲想の深まりを感じることができる。と考える。

## 5 指導目標

- (1)オーケストラの音楽に興味を持ち、意欲的に楽曲を鑑賞することができる。  
(音楽に対する関心・意欲・態度)
- (2)楽曲を特徴づけてる主な曲想を感じ取って鑑賞したり表現したりしている。  
(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3)楽曲の曲想を感じて情景を想像し、音色の壮大さに浸りながら聴くことができる。  
(鑑賞の能力)

## 6 指導計画

段階	時	学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援
つかむ	第1時	1. 本時学習のめあてを情景から話し合う。 (1)管弦楽組曲「惑星」の全曲を紹介する。 (主旋律を中心にしたもの) (2)めあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">管弦楽組曲「惑星」から壮大な宇宙を想像して聴こう</div>	○プロジェクターを使い壮大な惑星の映像を見せ、宇宙の広がりなどが感じとれるようにする。
		2. 「惑星」から壮大な宇宙を想像して聴く。 (1)CDを聴く。(ダイジェスト番) オーケストラの響きを味わいながら聴く。  1, 火星－戦いをもたらすもの 2, 金星－平穏をもたらすもの 3, 水星－翼のある使者 4, 木星－喜びをもたらすもの 5, 土星－老いをもたらすもの 6, 天王星－魔術師 7, 海王星－神秘家  3. 本時のまとめをし、次時学習の内容を話し合う。	○曲の情景を想像したことをグループや近くの人と交流させる。  ○管弦楽組曲「惑星」の7曲を知る。特徴をつかむために曲のCDに合わせて指揮やフレーズを口ずさむ。  ○強さや速さ、楽器の重なりに気を付けて聴くように、情景図、学習プリントに書かせる。
深める	第2時	1, 本時のめあてを話し合う (1)前時学習を想起する。 (2)めあてを確認する、 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">情景を想像して聴いたり、表現の仕方を工夫しよう</div> ・オーケストラの響きを味わいながら聴く。	○前時の映像のパネルを見せ、想起させる。  ○自分が考えたことや思いを自由にノートに書けるようにしておく。

		・曲想を味わいながら聴く	○旋律が覚えて歌えるようにしておく。
第 時	第 時	1. 本時のめあてを話し合う (1)前時学習を想起する。 (2)めあてを確認する、	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           楽曲の気分やイメージを生かし、表情豊かに「木星」を演奏しよう。         </div>	
		2. グループになって話し合い、イメージを表現するのにふさわしい楽器を選ばせる。 (1)主旋律を聴き、歌う。 (2)伴奏に合わせて奏唱法を工夫する。 3. 表現した音の流れを、楽譜やプリントに書き込む。 4. 本時のまとめをし、次時学習の内容を話し合う。 ○演奏を工夫すること。	○グループとして、どんな曲想にしていくのか方向付けをする。 ○楽器を選ばせるためのヒントとして、いろいろな楽器の奏法や音出しの工夫の例などを示しておく。 ○速さを感じてための観点を提示し意識付けさせる。 ○演奏の心地よさや楽しさを味わわせるために、部分的に取り出して演奏させる。 ○演奏している様子をVTRに撮影し、学習の成果が分かるようにする。
第 4 時	第 4 時	1. 本時学習のめあてを話し合う。 (1)前時学習を想起する。 (2)めあてを確認する。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           曲の内容に合うようにグループで曲想表現の工夫をしよう         </div>	
味 わ う		2. グループごとに、壮大な宇宙の演奏の仕方を工夫する。 (1)拡大楽譜で、確認し演奏できるようにするために青色で囲み、その再生に合わせて小グループごとに練習する。 (2)表現の工夫をし、演奏する。 3. 本時のまとめをし、次時学習の内容を話し合う。 クラスのみんなで合奏をする。	○グループに分かれて練習できるように、ブースを作っておく。 ○気持ちを込めて演奏したいところを話し合わせ、強さや速さの工夫をするように助言する。 ○演奏を聴き合いながら、学習を進めるように言葉掛けをする。 ○クラス全員で演奏をし良さを感じ合う。 ○また、このときの様子もVTRに記録しておく。

## 本時の目標

様子を思いうかべながら、前時に各グループで工夫した演奏や歌い方を生かして、演奏することができる。曲想表現の工夫をして楽しく意欲的に奏唱法に取り組み、自分たちの感受の高まりを感じることができる。

準備 拡大楽譜 旋律や伴奏を録音したCD・FD  
再生機各種

## 展開

学 習 活 動 と 内 容	支 援
1. 本時学習のめあてをつかむ。 (1) 前時学習を想起する。  (2) めあてを確認する	○ 始業前からグループごとに、前時工夫したことを確認しておくようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             グループで工夫したことを生かして6の3の「惑星」をつくり上げよう。           </div>	
2. グループで工夫したことを発表する。 ○ グループ毎に工夫したところや一番思いを伝えたいところを発表させる。  ・ 歌や合奏では、音が正しくとれること ・ 強弱をつける。 ・ みんなの思いを一つにすること ・ 宇宙の壮大さや木星の情景（喜びをもたらす者）を想像しながら演奏させる。	○ 友だちの演奏をよく聴き、音色の響きに気を付けて演奏している子どもを賞賛する。 ○ 表現を工夫して、強弱や速さ、言葉に気を付けて歌おうと発声や呼吸・発音の仕方などに気を付けて歌っている子を賞賛する。 ○ できていない子には、のどを開けることや息をしっかりと吸うことなどを指導する。 ○ 各グループごとに工夫したいことや困っていることなどを聞いていき、解決のためのアドバイスを行うようにする。
3. グループごとの工夫を生かして「惑星」を全体で演奏する。 (1) 演奏の工夫について話し合い、全員で演奏する。	○ 3つのグループの工夫の共通点を確認し、拡大楽譜に記入する。 ○ クラス全体で演奏することにより豊かな響きの演奏が表現できたことを賞賛する。
4. 本時のまとめをする。 (1) 前時の表現と聞き比べ、自分たちの感受の高まりについて話し合う。 (2) 今日の学習でを書く	○ 感受の高まりとしてビデオに記録しておく。 ○ 壮大な宇宙への思いを工夫することができるようになったことを賞賛する。